

# 京都で人とつながる 夢がひろがる 京都市はたちニュース

令和3年京都市はたちを祝う記念式典が感染症対策を徹底のうえ、開催されました！



多数のはたちを迎える方が参加し、一生に一度の式典に思いをはせていました。



1月11日(月・祝)にみやこめっせ(京都市勧業館)及びロームシアター京都で開催された「京都市はたちを祝う記念式典」。

## 感染症対策

国の緊急事態宣言下のイベント開催基準である「収容人数5000人以下」かつ「収容定員の50%以下」の要件にあわせ、様々な感染症対策を行いました。

会場の分散化や開催回数の増(2会場→10会場)、式典時間の短縮、LINEでの申込受付の実施など、開催方法を見直しました。また、マスク着用の徹底、座席間隔の確保、サーモグラフィによる検温、会場前の二条通りの通行規制、密集防止のための動線の確保など、会場内外での対策を徹底しました。

優雅な音色と華麗な踊りではたちを迎える方をお迎えしました。

はたちを迎える方の門出を祝うため、京小町踊り子隊の皆さんが応援に駆け付けてくれました。

色鮮やかな衣装に身を包んだ京小町踊り子隊が「京小町踊り子隊メドレー」を披露すると、一気にお祝いの雰囲気会場に広がりました。



京小町踊り子隊

続いて、京都市消防音楽隊の演奏による市歌・国歌を静聴し、厳粛な式典が閉式しました。

門川市長からはたちを迎えられる皆様へ



門川大作  
京都市長

来賓紹介の後、門川大作京都市長は「京都の文化政策・まちづくり政策に主体的に参加し、ひとりひとりの個性を発揮してほしい」「人生に無駄なことなし」「コロナ禍の今は試練の時。困難な時も未来を展望して共に大改革していきましょう」とのエールを新成人に贈りました。

京都市会からはたちを迎えられる皆様へ



山本恵一  
京都市会議長

山本恵一市会議長からは「何事にも果敢にチャレンジしてほしい」「主権者としての自覚を一層強く持っていたほしい」との期待を込めたお祝いの言葉が贈られました。

新成人への励ましと華包贈呈

在田正秀京都市教育長からの新成人への励ましの後、村上圭子京都市副市長と澤村悦弘ユース21京都理事長から、京都の若手華道家達が現代に復活させた、江戸時代のいけばなの伝書に残る「華包(はなつつみ)」が新成人代表へ贈られました。



新成人への励まし



華包贈呈

新成人代表による二十歳の誓い

人間は誰しもその人にしかできないことがあるはず。子どもの頃から多趣味だった私は、いろんな経験を通じて、芸術にそれを見出しました。将来の自分が後悔することのないように人生に挑みたいのです。



會田天さん

歌うことで自分自身を表現していた私は、コロナ禍により歌う機会を失ったことで、落胆していました。しかし、どんな状況であっても未来の可能性に突き進む友人の姿を見て、勇気づけられ、私も、現状を受け入れ、前へ進む大人になりたいと思うようになりました。



堤香乃さん

20年間、いろんなことから逃げてきた私ですが、小学校の教員になって現場から教育を変えたいという夢を持っています。一人一人の子どもを徹底的に大切にし、逃げない教員になるために励みます。



西田光さん

高校サッカーのマネージャーをしていた時、体を大きくすることに苦労していた選手を見て、選手を支える栄養士になりたいと思いました。今は、スポーツに限らず、どのフィールドでも活躍できる管理栄養士を目指しています。



高山花恋さん

私の夢は、高校で学んだモノづくりの発想プロセスと大学で学んでいるデータサイエンスを交えた、新しいモノづくりの考え方を作り、京都でモノづくりに携わる人たちを支援して社会を明るくすることです。



原健太さん

私は、大学で建築を学んでいます。コロナの影響で人々のライフスタイルが変わり、自宅で過ごす時間が多くなったことにより、設計の考え方も変化しています。人々がより良いライフスタイルを送れる社会を作りたいです。



小西真由さん

小さなことにも問題意識を持つことは短所だと思っていました。友人のアドバースによって長所でもあることに気づくことができました。ガールスカウトで、持ち前の観察眼を活かし、傷つきやすい人の支えになれるようになりたいです。



島津花野さん

中学生の頃にプログラミング教室に参加したことがきっかけで、情報工学に興味を持ち、現在、学んでいます。将来は、人口知能の研究に携わり、仕事も家族を持つことも諦めず、働く女性を助けてくれるような人工知能を生み出したいです。



平居珠美さん



倉木麻衣さん お祝いメッセージ

京都観光おもてなし大使である歌手の倉木麻衣さんから、私たちを迎える方へ、お祝いメッセージが届きました。

スクリーンに映し出された倉木さんからは、「自分だからこそできる社会貢献を。どんな時でも自分自身を信じて。そして支えてくださっている仲間を大切に、傷つくことを恐れずに、『ステイストロング』『ステイポジティブ』。とメッセージが贈られました。



おめでとう・ありがとうの手紙

日頃はなかなか言えずにいる感謝の気持ちを新成人から家族へ、お祝いの言葉を家族や特に関係の深い方から新成人へ贈ることを目的とした「おめでとう・ありがとう」の手紙を募集しました。本年度は特に心に残る作品を選定しましたので、ここに紹介します。

二十歳になった娘 美月へ

美月、二十歳おめでとう。あなたと出会って十八年。施設にいたあなたは孤独な目をしていた。最初は母親になれるか心配だった。血のつながりも、心のつながりもないあなたと、どうやって家族になれるか必死だった。だけどいつだってあなたは私を「ママ」と呼んだ。転んだとき、虐められたとき、嬉しいことがあったとき。そんな日々を過ごす中で私は「里親」ではなく「親」で、あなたは「里子」ではなく「子」なのだと思えるようになった。そんなあなたももう二十歳。そう遠くないうちにこの家を離れ、新たに自分の人生を切り拓くことでしょう。寂しさ、愛しさ、すべてあります。だけどこれだけは覚えておいて。この先どんなことがあっても「おかえり」と迎えてくれる場所があるってこと。あなたの涙も、汗も、ぜんぶ受け止めてくれる場所があるってこと。だって私たちは家族だから。いつでも戻っておいで。そして笑顔を見せて。あなたの笑顔は私たちの宝であり、生きがいの宝だから。

1/2成人式の取組



新成人に声掛けをする 小学4年生

小学4年生がこれまでの成長を振り返り、将来を考える「1/2成人式」。当日は小学校4年生の児童とその保護者たちが参加し、受付でお兄さん、お姉さんたちに「おめでとうございます！」と元気な掛け声をしてくださいました。その後、新成人とともに式典にも参加し、10年後の自分の将来に思いをはせていました。

思い出成人式

京都市はたちを祝う記念式典には、仕事や家庭の事情など様々な理由で20歳の時に式典に参加できなかった方で、改めて「大人のけじめ」として式典に参加したい方をご招待し、新成人の方と一緒に式典に臨んでいただいております。今年も2名の方が出席されました。

成年年齢引下げ後も 20歳での式典を継続します！

令和4年4月の改正民法施行に伴い、成年年齢が18歳に引き下げられますが、京都市では、参加者が落ち着いて参加することができ、家族や旧友、地域社会との繋がりをしっかりと確認できるように、成年年齢引下げ後も、20歳での式典開催を継続することとし、「はたちを祝う記念式典」と名称を変更しました。

これからも、京都市全体で青年の成長の節目を祝ってまいります。



京都市では、社会全体で青年の門出を祝い励ます気運を高め、成人の日をきっかけに人と人、人と社会の絆が深まるよう、「はたちプロジェクト」を展開しています。



京都市

京都市は持続可能な開発目標 (SDGs) を支援しています。



発行 子ども若者はぐくみ局子ども若者未来部育成推進課  
TEL: 075-748-0016

京都市印刷物 第 024889号  
令和3年3月